

「子ども力」を

ひきだす

学校づくり

いじめ、不登校も必ず解決できる

小部 修

OBE Osamu



せせらぎ出版

「子ども力」を
ひきだす
学校づくり

いじめ、不登校も必ず解決できる

小部 修

OBE Osamu



せせらぎ出版

目次

はじめに

「子ども力」とは.....	1
---------------	---

第1章 いじめについて

1、A君の体験ー地獄の中学3年間.....	4
2、Aくんの体験からⅡ「ゼロとー」のちがい.....	9
3、クラスづくりの実践的検証.....	11
商社マンから「極限状態」の中学校へ.....	11
4、「超中学級」Sくんの担任に.....	14
5、C中1年1組の場合.....	25
6、班編成と班ノートの手順とコツ.....	32
1、班編成について.....	32

第2章 いじめ・不登校問題についての検証

2、班ノートについて	32
3、不登校生への手だて	33
1、子どもの実態調査Ⅱ文科省2018年度（2019年10月17日発表）	40
2、いじめ問題の背景と課題	42
政府、文科省などの対応と結果	42
問題点と課題	42
3、やれること、留意点など	43
集団づくりの基本的視点	43
めざすべき集団	43
書く⇕考える⇕自分と向き合う⇕人を理解する⇕相互理解⇕認め合う	44
4、不登校のーくんと動物飼育（2年1組）	45
IくんがリーダーにⅡカエルと子どもたち	45
みんなで捕獲大作戦開始！	48
事件（？）発生！	49

第3章 部活、スポーツ、体罰についてⅡ自主性、人間関係づくり

- IくんをリーダーにⅡ全員で役割分担（休日、長期休暇時も）……………51
- カエルの里帰りⅡさようなら、カエルくん！……………54
- 「学級歌づくり」コンクールで最優秀賞に！……………55
- 5、現場の実態と課題……………59
 - このような施策のもとでもやれること……………59
- 1、キャプテンC君の自殺……………64
- 2、この件から見えてくるもの……………67
 - 部活と授業のちがい……………67
 - 人事配置問題……………67
 - 高校の「体育科」と大学へのスポーツ推薦入学制度……………68
 - 体罰への認識と向き合い方……………68
 - スポーツと体罰（暴力）の関係性と問題点……………68
- 3、スポーツとは？Ⅱ強さの裏にあるもの……………69
- 4、やってよかったと思える部活に……………71

第4章 体罰の歴史的考察 —「武士道」——とも関わって

5、「引っぱる」指導から「育てる」指導へ	73
6、今後の課題と展望	78
① 勝利至上主義に陥らない	79
② 「その気」にさせる＝自立を図る	80
③ 科学的な指導	80
④ 人間的な成長を図る	81
⑤ 開かれた部活動	81
1、歴史的背景 その1＝戦国時代～江戸時代の武家社会	84
体罰は日本の伝統ではなかった	84
2、歴史的背景 その2＝明治以降	89
明治前期＝世界にさきがけてできた「教育令」で体罰を禁止！	89
明治中期＝侵略目的の富国強兵政策と体罰行使	90
明治中～後期＝日清、日露戦争勝利で体罰の常態化	91

第5章 いま学校では？ 教員の長時間労働・同僚性・中途退職など

1、教員の無定量長時間労働	94
2、「同僚性」再構築の必要性	95
3、具体的なケース	97
Nくんの場合 Ⅱ 新卒で中学社会科採用後2カ月で退職	97
Sくんの場合 Ⅱ 新卒で中学英語採用後1カ月で退職	99
4、中途退職者増と現場的要因	101
5、「同僚性」と「いじめ問題」	102
「いじめ問題」は「学び」のチャンス	102
「同僚性」再構築は教育の再生 ↓ いじめを克服できる集団づくり	104
6、拍車をかける「教職員評価・育成システム」 Ⅱ 管理・統制の強化	105
7、同僚性の再生と構築のために	107
克服したい職員室の「ネットカフェ化」	107
具体的な留意点（現場的視点から）	108

8、学校が「楽校」であるために⇨教師は潤滑油に	109
-------------------------	-----

第6章 教師と「子ども力」

1、子どもは変わったか？	116
2、それでも子どもはがんばっている⇨生徒会顧問として	121
3、2年生Bさんの場合⇨両親の離婚危機とのはざままで	125

第7章 授業で発揮する「子ども力」

1、キング牧師夫人コレッタさんからの手紙	132
2、授業とは？	136
3、市教研（公開授業）のこと⇨すべて生徒だけで進める授業	137
1 ある日の職員室で	137
2 市教研の授業を「しんどいクラス」で	138
3 当日の授業⇨オールイングリッシュで	143

第8章 「I have a dream.」とキング牧師夫人との交流

- 1、未来への英文メッセージ「I have a dream」とその絵……………164
- 2、メッセージの暗誦とビデオ撮り……………175
- 3、生徒の「戦争について」のメッセージ など……………179
- 〈I think about war〉 by students……………179
- 4、その後コレッタさん宛に書いた僕の2回目の手紙……………182

第9章 大学のこと——学生のレポートから見えてくるもの

- はじめに……………190
- 1、大学教員の「仕事・役割」って?……………191
- 2、ともに考える授業Ⅱ協同学習……………192
- 3、ゆきとどいた授業とは?——「参加型」と問いかけ……………195
- 4、授業の「ライブ化」そして「考える」授業……………197
- 5、「受験教育」のひずみと教師の役割——「学ぶ」とは?……………201

第10章 小学校、高校の実践

1、小学校のことⅡY先生（7年目）の実践報告……………208

Kさんの場合Ⅱ3年生。やや自閉的で、前の学校にも馴染めないまま転入……………208

2、高校のとりくみⅡA先生（4年目）の実践報告……………212

持病のあるBさんのこと……………212

あとがき

そつと手をそえ、じつと待つ……………218

はじめに

「子ども力」とは

2018年度のいじめ認知件数（小中高）が、過去最多の約54万4千件となりました（2019年10月17日、文科省）。また、厚労省・警察庁の発表では、高校生以下の自殺者数も、いじめだけが原因とは言えませんが、前年度2017年より82人も増えて332人になり、ほぼ毎日のように、自らの命を絶っていることになります。

このように、子どもたちの「しんどさ」や「つらさ」、何かを訴える眼差しに逢うとき、まずその「現場」にいる教師、そして大人・社会が、この状況に躊躇し、あきらめや絶望をしないことです。むしろ同じ社会にともに生きる「同志」として、今こそ子どもたちと共感し、連帯のアクションを起こそうではありませんか。

また一方、最近の痛ましい事故・事件を見ても、個々の当事者が負うべきことの大きさは計り知れないものがありますが、もう少し広い視野で見た時、「子どもが見えにくく」

させられている状況も否認しません。したがって私たちは、子どもたちが示す様々な事象を「現代社会への警鐘」と捉え、歴史的な視野で現代社会の状況を捉え、具体的にどうとりくめばいいのかを考える必要があります。

本書で紹介した多くの事例からもわかるように、普段は見えないけれど、子どもは秘められたすばらしいエネルギーを内蔵しているし、それがひきだされた時には、感動的な躍動があることを何度も経験してきました。そのような不思議な力を、私は「子ども力」と表現することにしました。

今こそ子どもたちの「心の叫び」と真正面から向き合い、そのパワーと可能性Ⅱ「子ども力」をひきだすため、親、教師、学校、地域、社会が力を合わせ、前向きにかつ大胆に、やれることからやっていくではありませんか。

本書では、そんな子どもたちの自主的・主体的なとりくみや、「生の声」もふんだんに紹介しながら、具体的に論理的・実践的に説き明かしていきたいと思います。

第1章

いじめについて

1、A君の体験―地獄の中学3年間

前述のように、いじめ事件については、ここ十数年来の携帯電話やラインなどSNS (Social Network Service) の普及によって、より見えにくく「陰湿化」しています。そして子どもたちだけでなく、まわりの大人（保護者、教師など）も、大きな不安や恐怖感を抱いています。

一方、大学での私の授業（教職課程）で、この問題を取りあげ議論をしたあと、受講生Aくんが「みんなにぜひ知ってほしい」と、自らの中学校時代の体験を語り、書いてくれました。

Aくんの文

中学校3年間にわたるいじめの体験は、僕にとって6年たった今も、決して消え去ることのない苦しい思い出です。

いじめが始まったのは、中学1年生の6月のことでした。僕は、どちらかというと、人前では無口で、活発という方ではありませんでした。ある日、小学校からいっしょだった友人の家に招かれ、皆で話をしていた時、突然一人が言いました

「おいA！ エロ本見たるわ。その代り、ズボン脱げや！」

もちろん断りましたが、友人たちの「ノリ悪いなー！」という言葉に、僕はズボンを脱ぎました。

その頃の僕はあまり友達がおらず、人にきらわれることを恐れていたのです。「ノリが悪い」は、その頃の僕には「お前とは友達でいたくない」に聞こえていた気がします。

その直後です。いきなり一人が僕のパンツを脱がし、皆がこぞって、携帯で動画を撮り始めました。その部屋には全部で7人いたんで、抵抗する術すべなどありませんでした。

次の日、学校に行くと、みんなの僕を見る目が一変していたのです。

初めは、野球部の部屋や小さなグループなどで広がり、その規模はだんだん大きくなり、最後には男子、もちろん女子も含め、学校全体の生徒に映像が回っていったのです。そしてその「おもしろおかしい動画」は多くの生徒の携帯の中へと入っていききました。

誰も僕と話そうとしませんし、その映像を持っている人は僕に近づこうとしません。「僕

だって、いじめられたくないねん。ごめんな」。そんな目をした生徒もいたような気がします。話しかけてくるのは、僕をからかい、なぐりに来る奴らばかりでした。

中学生には、事の重大性がわからないようです。その画像を手にし、「なあ、この画像、見たで！ すんごいなー！」と目を輝かせて言って来るのです。怒りと悲しみでその携帯を放り投げては、その子に平謝り。またその子の親にも弁解し謝り続けました。説明する勇氣などありませんから。

これが、このいじめの第一段階でした。

次の段階では、この画像は、僕の「弱み」としてフルに活用されました。

「ばらされなくなったら、ああしろ、こうしろ！」という脅しです。

また、廊下ですれちがう際に、習慣のように、肩パン（肩を肘で思い切り叩く）をふるう。これも、僕が言い返せないのを知っているからです。それが、3年間、ずーっと続きました。

ちなみに、一年ごとに入ってくる後輩たちにも、その画像と動画は回されました。誰が知っているのか、誰が知らないのかもわからないので、すごく窮屈な生活を送っていました。何度か死ぬことも考えましたが、その勇氣がなかったのは、不幸中の幸いです。

また親にも、先生にも言えませんでした。「チクったな!」。この言葉が、中学生にとつてどれだけ恐ろしい言葉なのかを大人は知っておかなければなりません。早くいじめをなくしたいのに、それをぶり返すような行動は決してできるものではありません。僕がいじめがなくなつたのは、高校に行き、地元から遠く離れてからのことでした。ここまでが、僕のいじめの概要です。

さて、僕が教師の方々に求めていたものは、「気づいてくれること」と、「味方を増やしてくれること」です。

まず、「気づいてくれること」

先ほども書いたように、生徒は絶対に、先生にいじめの事実を話すことができません。先生に話したことがばれたら、またさらにいじめがひどくなると思うからです。子どもたちは、先生に見つからず、いじめを遂行する術を知っています。信じられないかもしれませんが、「先生の通らない道」、「他の生徒が来ない道」、また、「先生のタイムスケジュール」まで計画に入れているのです。それを逆手にとって行動しないと、僕から言わせれば、いじめが見つからないのは当たり前なのです。

もうひとつは、「孤独にさせない」と

ほとんどの生徒は、「傍観者」です。その傍観者が、いじめられっ子から距離をとってしまつと、彼らは孤独になり、「学校に行くのが楽しくなくなる」のです。友達も、頼れる人もいなくなると、その生徒の逃げ場がなくなってしまうということです。

最近、母子家庭なども増えていて、親に心配をかけたくないため話ができない子も多くなるので、友達のできやすい環境をつくってあげる。また、少なくとも先生が味方であげること、心境的には大きく変わります。今回、授業の時にも少し言いましたが、いじめられっ子にとって、心の逃げ道の相談者がいるといない、すなわち「ゼロと一」は大きくちがうのです。

また、その胸の内をさらけ出せる大人がいないというのは、つらいことです。その生徒にとって、いじめがなくなる目途が立たないのはただの絶望なのですから。

最後に、先生方に言いたいことがあります。

「いじめに常にアンテナを張っている」だけでは不十分なのです。そのアンテナを、「どう張るか」、「どこに張るか」なのです。いじめっ子目線でいじめをいち早く察知してください。そして、いじめられっ子と同じ土俵でいっしょに戦ってあげてください。お願いします。

ます。

2、Aくんの体験からⅡ「ゼロとー」のちがい

中学校に入学して間もなくこのような状況になったA君は、その後の3年間をどう思うかで過ごしたのかは察するにあまりありません。

同級生には、男女を問わずまたたく間に画像や動画が携帯電話で次々と回され、みんなの好奇の目が突き刺さり、彼が書いていたように、中にはすれちがいざまに、グーのげんこつや肘で肩を強く殴られたりしたのです。

また、2年生になったら、下級生の1年生にも回され、時には卒業生や塾の他校生からも言われたこともあったそうです。そして2年生の2学期になって気づいた母親が、泣きながら「先生に言おうか？」と言われた時も、さらなる事態の悪化を恐れ、「がんばるか」絶対と言わんという！と彼は言ったそうです。そして何度となく自殺を考えたが、それでも家族には心配をかけまいと、卒業までほとんど欠席もしないでがんばり続けました。

そんな彼が言いました。先ほどの文中にもあるように、「ゼロと一」のちがいは大きい。実は、彼のそばに一人だけ、いつもついてくれていた友人Bくんがいたのです。

そのBくんとは、その後もつきあいがあったそうです。卒業後5年たった成人式で、事件当時の同級生仲間が集まった時のことです。あの映像を拡散した何人かが、「あの時はおもろかったよなー！」と笑い話にした時、BくんはA君の気持ちを察知し、そっと「もうこんなところにおらんと帰ろ！」と言って成人式を二人で抜け、お茶をしに行ったそうです。

A君は、今でも「メール」とか「動画」などの言葉を聴いただけでドキッとするそうです。

なお、中学校での3年間で、その件について知り、彼に声をかけたりなんらかの対応をしてくれた教師は残念ながら一人もいなかったそうです。でも、それで教師を責めることができないくらい、今のいじめは「見えにくく」なっているのです。

3、クラスづくりの実践的検証

商社マンから「極限状態」の中学校へ

ところで私は大卒後2年間勤めた貿易商社を退職し、東大阪市立K中学校に英語科常勤講師として赴任しました。そこは1学年が11クラスある大規模校で、当時全国的に吹き荒れていた「学校荒廃」の中でも、おそらく有数の荒れ方でした。学校中のガラスが毎日のように割られ、ガラス屋さんも「やりがいがない」と言って、修理に来てくれなくなり、その結果自分たちで段ボールやベニヤ板、トタン板などで応急処置。また対教師暴力（暴行傷害）も絶えず、その後心身ともに極限状態の中での教員の休職、退職が相次いだのです。

その時の集団づくり（クラス、学年、学校）の体験が、その後の私の教師生活の支えともなったので、まずその頃の「非行」の一端を紹介します。

当時のK中における「荒廃・非行」の一端

5月11日 BらがY先生（女性）を殴る

14日 Cが親に叱られ家出

15日 B、D、Nが授業エスケープ、その後エスケープが広がる

16日 Dが他生徒をかつあげ。M、近所の釣り堀の鯉を殺す。Dら4人が教室で暴れる

18日 Dが1の2の掲示物を、ナイフでズタズタに切り裂く。Nが1年生からかつあげ

23日 S（私の担任の男子）がB先生を殴る（気絶↓病院に搬送）

24日 D、N、Lらが、職員室隣の会議室を占拠、喫煙

27日 S、Yらが教師を殴る

28日 D、L、Bらが教室で集団喫煙

29日 S、D、Bらが会議室を占拠。R先生のハンドバッグから3万円を盗む（この頃から、教師が疲労困ぱいし、欠勤が増え自習時間が増え、授業が不成立）

30日 S、飲酒の上、K先生を殴る

6月2日 LがB君を殴り、その仕返しにSがLを殴る
校長室の冷蔵庫の飲み物30本を飲む

10日 午前中で授業を打ち切り、午後から緊急職員会議

11日 T先生、生徒に殴られ入院。全治3週間

12日 D、N、L、Sらが他校生を恐喝、警察に連行、留置

13日 昨日に続き、警察で取り調べ

14日 職員会議（対策会議、終始重苦しい雰囲気）

18日 Sらが、U先生よりかつあげ

22日 Sらが、再びU先生よりかつあげ

29日 40代男性体育N先生、限界を感じ、年度途中退職

7月2日 20代女性のN先生欠勤。他の教員数名と家庭訪問し慰留を説得

4日 S、Dらを、N先生宅に謝りに行かせる

13日 電車で映画鑑賞に行く途中、Sが電車の窓ガラスを割る

15日 A、D、Sらが、職員室にあった教師用の仕出し弁当十数個を教室に持って行き、みんなで食べる（その後、仕出し弁当の持ち去りが頻発。そのため昼食抜

きの教師が増える)

※その後も、保健室で女性教員を強姦以下略。

4、「超中学級」Sくんの担任に

班活動、班ノートとの出会い

そんな中、「非行グループ」の中でも圧倒的な「ボスの存在」で、次年度に3年生になるSくんの担任が決まらず、やむなく常勤講師という「イレギュラーな形」で、新年度からSくんのいる3年6組の担任を受け持つことになりました。

さて新学年が始まり、初めて担任となったものの、私は商社マンあがり、元々教員志望ではなかったこともあり、本当にとまどい悩みました。そして1ヵ月ほどたった頃に考えついたのが、ある研究会で知った「班活動」の実践だったのです。

しかし、それをどう実践すればいいのかわからなかったもので、とにかくクラスの学級役員や班長たちと相談しながら、手さぐりで進めて行きました。

そして、まず私からは、次のような要望（目標）をクラスのみんなに示しました。

- ① 37人はすべてクラスの一員
- ② どんな小さな問題でもあいまいにせず、表面的に見ない
- ③ 問題の当事者の身になって考える
- ④ 不満や要望は、はっきりと堂々と言う
- ⑤ 人からの批判は謙虚に聞き、誤りは素直に認め改める

しかし、「極限の荒廃」状態で、子ども、親、教師がお互いの不満、疲労から相互不信が渦巻く中、そうはうまくいくわけがありません。

そこで、次に思いついたのが、その後担任したクラスでも、毎回いじめ・不登校が完全になくなり、ほんとに頼もしくてもおもしろい生徒集団づくりができた最高のツール「班ノート」のとりくみでした。

その一端を、その3年6組の子どもたちが書いた班ノートから、いくつかを紹介します。

Ｔくん（10月15日）

班活動をして、どんな成果があったか？　まず僕は、何事に対しても考える、ということを知った。ひと口に「考える」と言うが、これはとても難しいことであり、また尊いことだとも思う。

たとえばこの班ノートにしても、以前は、はっきり言って書くのがじゃまくさかった。今でも時々じゃまくさいことがあるが、たいてい自分なりにない知恵を絞って、いっしょうけんめい考え、そのすえに書く。そういうふうにしてきたつもりだ。今の僕らのまわりには、僕ら自身が考えていかなければならない問題がたくさんあると思う。

ある問題が起こった時に、急にその問題について深く考えるということは難しい。ふだんから、どんな小さいことに対しても真剣に考える。そう心がけておく必要がある。ふだんからあまり考えない人には難しいことだが、今の僕にはそれができる。以前の僕は、それほど物事を真剣に考えるほうではなかった。しかし班活動をしてみんなと話し合っていくうちに、そういう習慣が身についたのだと思う。これはすばらしいことだ。ぼく自身、

班活動をしてそういう力がついてきたように思う。これからも思い出をたくさん作って卒業していききたい。

女子Nさん（2月2日）

私は三年生になって、話し合いや協力というものを、教科書以外で習いました。そして、それがいかに大切であるかもわかりました。話し合うにしても、協力し合うにしても、ただ毎日のほほんと過ごしていたのではできません。また問題点があるのにも気がつかない。まわりをよく観察し、そして自分なりの考えを持ってそれにとりくまなければ、話し合いも協力も生まれてこないと思います。問題のないクラスや班なんてないはず。問題が多ければ多いほど、このクラスやみんなはよくまとまっていると思う。なぜなら、それだけクラスや班に、みんなが関心を持っているからなのです。

しかし、問題が多いだけではない。それを一つひとつみんなの話し合いや協力でなくしていかなければいけません。

このクラスで教えられた話し合いは、うわべだけを円満にするためのものではありません

んでした。心の中から円満になるための話し合いであったように思います。どんな小さなことにも目をそむけないで、常に話し合いの場を持って、誰にもえんりよすることなく、自分の正しいと思うことを主張し、いつも自分の考えを持つようにしてきました。そしてこれからも、他の人の意見をよく聞き、その中で正しいことは聞き入れ、また自分の考えをふくらましていきたいと思います。

さて、次に紹介するKさんは、3年生の年度当初の始業式の日、クラス分け発表の掲示板を見たあとすぐに私のところに、「先生、Sくんがいるクラスなんて、いやですからね。絶対に別のクラスに入れてください！」と言いに來たのです。困った私は、「でも、すでにみんなに公表したので、それは無理だよ……！」と言ったのですが、その後は、ほとんど私と目も合わさず、口もきいてくれない日々が続き、本当に困りました。

でもその後、先ほどのような経験をするなかで、彼女は中学校教員になりたいと思い、教育大学に進み、卒業後中学校教員になってくれたのです。そのKさんの文です。

Kさん（3月6日）

この1年間は、私にとってほんとうに考えさせられた日々でした。このクラスになった初めの頃と現在をくらべると、考え方について大きな変化があったと思います。

初め私は、小部先生の意見にもすごく反発していました。はつきり言えば、Sくんのことでした。先生は私たちに、Sくんと話す機会をなるべく作ろうと、班会議や話し合いをしたり、少しでもSくんが休めば、「同じ班なんだから、Sくんについてももっと考えてね」とよく言われました。

しかしその頃の私は、「なにもSくんだけのことで、そんなにいっしょうけんめいしなくてもいいじゃないか。Sくんだって、自分のわがままで来ないんだし、三年生にもなって学校がおもしろくないからと言って、学校に来ないなんてあまりにも勝手だ。先生も、Sくんのために、話し合いなんだと、まるでこのクラスがあの子を中心になりたっているみたいだ。私は何も、あんな子のために犠牲になりたくない」と思っていました。

いま思えば、ずいぶん利己主義になっていたんだなあ、と反省させられます。その頃の私は、クラスの人たちを無視して、勉強だけに打ち込もうと自分に言い聞かせていたんで

す。けれどそんなことは、決して長続きはしませんでした。そのようにすればするほど、自分がみんなから孤立していくみたいで、しだいに不安になり、はたしてこのままでもいいんだろうかと考えるようになったんです。

そして、その後のいろんな話し合いや取り組みの中で、利己主義というのは、ただ自分で自分の値うちを下げ、人間性を失わせる一種の魔法のようなもので、人と人とのふれあいの中で生まれる友情というものを、自分からなくしてしまうだけの価値のないものなんだとはつきりわかりました。このことは、この１年間を通して、一番大きな収穫だったと思います。まだ今でもそのような考え方は多少残っていますが、この１年間の経験を、これからの高校生活の中でも生かしていきたいと思っています。ありがとうございました。

そして、あのSくんですが、夏休みに、学校外で暴力事件を起こし、一度少年鑑別所に入ったあとは、なんとかがんばって無事(?)卒業してくれました。

Sくんの文(2月23日)

ぼくは、1学期、2学期、3学期と、あつとゆう間にすぎてしまいました。ぼくは、クラスの子らにここまでしてもらい、なんといつていいかわかりません。ぼくは、これからまじめになることに決めました。だからあとわずかですが、みんなといっしょにがんばりたいです。

ぼくは、みんなに助けられて、ほんとうによい組だったと思います。これからぼくはがんばらなければいけないし、みんなもまけずにがんばってください。先生にもお世話になって、ぼくはうれしいと思っています。どうか先生も、これからも苦しいことをのりこえてがんばってくださいね。これがいま、ぼくが思っている気持ちです。

一方、クラスづくりと並行して、「学校再建」のためにとりくんでくれた生徒会の「答辞作成委員」が作ってくれた、その年度の答辞も紹介しておきます。

3月の卒業式での答辞Ⅱ各クラス代表一人計11人の「答辞作成委員」が作成

今日ここにこうして、私たち11クラス410名が卒業するにあたって読むこの答辞は、

単に答辞作成委員11名だけによるものではなく、卒業生全員の意思をいかに反映させるかを考えて作成したものです。そのため3年生全員にアンケートをとってまとめました。

さて私たちが本校で過ごした3年間をふり返ってみた時、いったい何を得たでしょうか。確かに得たものも多いと思います。たとえば、自由でのびのびした学校生活を送れたということ。悪友にしろなんにしろ、かなり深い所まで話し合える友ができたということです。しかし私たちみんなは、多くの不満を抱いたままこの日を迎えました。もっとも多かったのは、先生方に対する不満です。アンケートからいくつか例をあげてみます。

- ・授業がわからないと言ったとき無視された。生徒を差別しないでほしい。
- ・休憩時間に質問に行っていやな顔をされた。
- ・授業をもっと計画的に進めてほしかった。
- ・自由放任もいいが、もう少しひきしめてほしかった。
- ・先生同士で意見がわかれている時があった。
- ・部活の顧問が無関心な先生がいた。

以上が、各クラスを通して多かった意見です。

ところで、私たちの答辞の目的はいったいなんでしょう。結局言いたいことは、しっかりした教育方針を持つてほしいということです。またそれが実行不可能なら、先生方と生徒で新しい「真の教育方針」を作り、それに基づいた教育をしてください。

一方、私たち自身にも反省すべき点がたくさんあったと思います。アンケートから、

- ・ 学校の設備を大切にできなかった。
 - ・ まわりのふんいきに負けてしまい、それを改善しようとしなかった。
 - ・ 学級活動を一部の人たちにまかせてしまい、自分たちから積極的に参加しなかった。
 - ・ 勉強について、満足できる成果をおさめることができなかった。
 - ・ 先生ばかりに要求して、自分たちに反省をおこたっていた。
- などがあります。

こうした反省にもあるように、私たちはこの3年間で何ひとつ満足なことができなかったですが、在校生のみなさんは、学級活動、生徒会活動、部活動などを自分たちの手にもどし、その上で先生方との話し合いを多く持ち、生徒と先生がいっしょになって、このK中学校のためにもがんばってください。

それとグラウンドを開放してほしいという要望もあります。今後とも、後輩たちのため

にも、どうかよろしくおねがいします。

以上、私たちの要望や反省などを述べましたが、これからも本校で得た経験を生かして、自主性と協調性のある人間になれるよう努力を続けるつもりです。どうか前途多難な私たちの行く手をじっと見守ってくださいるようお願いして、私たちの答辞とします。ありがとうございます。

答辞作成委員一同

大学受講生Hさんの文Ⅱ班ノートはすごい！

私がこの授業を受けて一番感じたのは、「子どもの成長」についてである。子どもは１年で、心も身体も大きく変わることがよくわかった。変わる、それも大きく変わる。これは文字通り「大変」なことである。

そしてその背景には、友だち、教師、保護者、地域のサポートがあるのだ。周りにそういう人たちがいるから、一人でいるよりも大きく、また大変なことも乗り越えていけるのだと私は感じた。

そこで私が、「これはすごい！」と思ったのが「班ノート」である。初めは個人ノートの方がいいのでは、と思ったが、子どもたち一人ひとりが、様々なことを文に書いているのを読んで本当に感動した。反抗期でもある中学生などは、□ではうまく言えなくても、「書くこと」で、自分と向き合ってしっかり書けるのだ。□ではつい感情的になったりするが、文章だと読み返すことで、ついつい言ってしまった、と言うことがなくなるからだと思う。すなわち、冷静に考え、自分と向き合い、同時に周りも見ることができるようになるのだ。これって、なんてすてきなことだろう。どの子も皆、自分向き合い、自分を見つめ直すなかでお互いが成長していくのだ。私はそれらを読んで、ますます教師になりたいと思いました。

5、C中1年1組の場合

転入生Bさん（不登校）とヤンチャ坊主

Bさんは、他市の小学校時にきついいじめを受け完全な不登校になり、5、6年生で

は、ほとんど登校できなかったため、その校区の中学校に行けず、卒業と同時に引越しまでして、わがC中に転入してきて、私が担任をすることになりました。

一方、その学年は、本校に入学する二つの小学校のひとつであるT小は、5、6年生時に授業参観日にも、保護者が後ろにたくさんいるにも関わらず、何人かの男子が、担任の制止も聞かず、靴のまま机の上を走り回るような、ほとんど「学級・学年崩壊」状態でした。その中心人物だったDくんたち3人を、私が受け持つことになりました。そして、入学式直後その3人が教卓前に来て、「俺らな、小学校で担任3人変えたったんやでー。知ってるか？」と自慢げに言い（威嚇しに？）来たのです。

そんな雰囲気を感じに察知したのか、Bさんは入学式の翌日からピタッと登校しなくなりました。困った私は、登校刺激を与えない程度で家庭訪問をし、入学式だけ来て、ほとんど存在感のない彼女のことを、できるだけクラスでも話すようにしていました。

そういう状況が約2ヵ月近く続いているうちに、私の気持ちを察したのか、何人かの女子が登校時に、彼女の家に誘いに行ってくれたり、彼女の家に遊びに行ったりしてくれ

るようになってきたのです。

そんななか、6月のある日のことです！

その頃週一回くらいでやっていた「朝レク」（朝7時半頃から、運動場か体育館で、班長やレク係の子らが企画運営をする朝のレクリエーション）に、突然Bさんが初めて来てくれたのです（その時は、男女混合チームでサッカーをしていた）。

それを見ていた私は、「ん？ Bさんが来た！」と、一瞬目を疑い、もたついていました。すると、なんとあのヤンチャ坊主のDくん（本来5、6年生と一人の担任で持ち上がりだったのが、担任が3回入れ替わり、うち一人が精神的に追い詰められ退職された時のボス）が、もじもじしているAさんの所に走り寄り、ひと言声をかけたのです（正直言って、その時は、Dくんが「今頃、何しに来てん？」などと言ったのではないかとハラハラしていた）。

すると、その直後信じられない光景が目に入りました。小学校時代のいじめ体験で、学校では声も発せられず、普通に歩くのもままならない彼女が、少しずつサッカーコートの中に入ろうとしていて、それを見た何人かの女子が、彼女に「はよ、入りやー！」と声かけをしてくれたのです。

その日、Bさんが、班ノートに書いてきてくれました。

Bさんの文 その① ボスのDくんからの声かけ

前からYさんたちからさそわれていた朝レク、今朝わたしは母の病気で、少しおくれて行きました。学校に着くと、もうサッカーが始まっていたんです。それで、どうしたらいいかわからずじっと立っていたら、あのD君が私のところに走って来て、「おい、入れよ！」って言うてくれたんです。すごくうれしくて信じられませんでした。次の朝レクが楽しみです。

このように、Bさんがその翌日持って来てくれた班ノートを読み、信じられないようなでき事を知って喜んだ私は、声かけをしてくれたヤンチャなDくん、「きのう、Bさんに声をかけてくれてるな。」とありがとう！と言ったところ、彼は「そうやったかな。」もう忘れたわ」と言って、そのままそこを立ち去ったのです。

いつもは生意気で、相変わらず教師を困らせることの多いDくんの「頼もしい後ろ姿」を見て、私は「胸キュン」で、なぜかすごく彼を愛おしく感じたものです。

でもその後も彼は、相変わらず掃除をサボったり、私の英語以外の授業中では、「トイレ！」と言っては、何回か「トイレ喫煙」をしていたようですけどね。

そしてその1週間後のことです。またまた「奇跡」のようなことが起こったのです！

Bさんの文 その② ヤンチャ坊主Eくんからの声かけ

ゆうべ8時頃、犬の散歩に行った時のことです。向こうからクラスのエ君が自転車でやって来たんです。私は何か言われへんかとドキドキしてじっとしていました。するとそばに近づいてきたE君が横に来て立ち止まり、「これ、お前とこの犬か？」とか「いつから飼おてんねん？」とか「なんちゆう名前やねん？」とかいろいろと話しかけてくれ、10分くらいしゃべりました。

前からE君たちはこわくてものも言えず、まさかあんなやさしい子だとは知りませんで

した。すぐくつれしかったです。

このようにして、Bさんは文字通りピタツと毎日来てくれるようになったのです。そして学年末には、次のようなことを班ノートに書き、他クラスの子らともつながることができたのです。

Bさんの文 その③（2月4日）

今日私は、2組、3組の子らといっしょにスケートに行ってきました。それで私は、なんとかすべれるようになったのですが、まだちょっと不安ですね。でもすべれるようになったからよかったです。

途中、12時頃にリンクの表面がけずられ、ガタガタになっているのを、係の人たちが、水をまきながらきれいにしてくれました。そしてそのあとすべったら、ツルツルですごくこわかったです。それと一番こわかったのは、私がすべってたら、知らないおじさんの手が思いきり私の目にあたって、とても痛かった。でも、すごく楽しかったです。

Bさんの文 その④（3月21日 終業式の直前）

早いもので、あと少して2年生ですね。ほんとに、いろいろ楽しいことがあったけど、私は、このクラスの仲のいい友だちとも同じクラスになりたいけれど、またぜんぜん知らない人とも友だちになりたいなあ、と思っています。なんかドキドキしています。

このようにして、Bさんは大きく成長し、2年生、3年生と、他クラスでも元気に登校し、無事卒業しました。

そして、彼女が卒業したあと、入れかわりに入学してきたBさんの弟に、「お姉ちゃん、元気か？」と聞くと、「うん、毎日行ってるで」とのことでした。そしてその後も、高校を卒業したあと、短大に進んだそうです。

このように、ほんとに信じられないようなことがあり、つくづく「子ども力」ってすごいなーと実感したしだと思います。

6、班編成と班ノートの手順とコツ

1、班編成について

5人か6人班がいい。男女半々

班長決め〓公選制（無記名投票、開票は教室でする）

2、班ノートについて

サイズ〓たて210mm よこ148mm 行間〓7mm

手順〓自己紹介から始めてもよい

書く順番を決め、それを守る

約束事

① 友達の悪口だけはダメ！

- ② 家で書く
- ③ 翌朝回収する
- ④ 担任が返事を書いて昼食時に返す
- ⑤ 次の子に回す↓②にもどる

3、不登校生への手だて

- ① 早いうちに家庭訪問をして様子をみる（登校刺激はしない）
クラスの様子や班編成、班ノートのことなども話しておく
- ② 班ノートが始まったら、他の子らの文をいくつかコピーして持っていく
もし本人が自己紹介なども含め、何か書きたいようなら、書いてもらう
- ③ それらのことを含め、クラスにも話しておく
その後も、不登校生の「存在感」をみんなで共有しておく

これだけです。最初は書かない子もありますが、次に回ってきた時に書けるように「次は

書いてね」とか、書いてくれた人の紹介などをして、書きたくなるようにもっていけば、必ず書くようになります。どの子も、他の子が書いたことに関心を持ち必ず読むので、大丈夫です。これは、小学生でも高校生でもまったく同じで、僕の大学での受講生が教師になり、この「班ノート」ですばらしい成果をあげている人もたくさんいます（※第10章参照）。

大学受講生のレポートより

この講義では、思いやりのあるクラス、まとまりのあるクラスにするために、様々なとりくみについて学びました。たとえば班ノート、班長会議、朝レクなどです。

先生が授業中に紹介してくれたクラスのとりくみの中で、教師になったらぜひ取り入れたいと思った中の一つに、班ノートがあります。まず、思ったことをなんでも書ける、そして自分の書いたことに対して、先生からコメントが返ってくるという点がいいと思います。

普段、□にしない、できないことも、班ノートにだったら、書ける事もあります。直接

話す勇気がない時には、班ノートの方が気軽に書きやすいのではないかと思います。また、それぞれの生徒が感じたことがみんなにも伝わり、また他の生徒の考えも知ることができず。それに加えて、班ノートで生徒の心の中にあることや、最近気になっていることなどがわかります。

また「班ノート」はお互いが感じたことを表現し、共有できるツールです。生徒が書いたことに対して、他の生徒がまたコメントを書くことができる。書く側の立場として、このように自分の書いたことに他の子からコメントをもらうということはうれしいものです。教師はもちろん、生徒もお互いの事を知る上でこの班ノートは人と人をつなぐ手助けをしてくれます。もちろん先生も、それに対して励ましのメッセージを伝えることもできます。

このように、これを一年間続けていくと、どんなきっかけで、子どもの気持ちや心に変化が起こり、またその後どのように変化していったか、を振り返って分析することもできるので、ぜひ自分もやりたいなと思いました。

○班ノートのAさんの詩Ⅱ「14歳の私」

14歳

子どもでもなく大人でもない

子どもと思われなくなくて

ちよっぴり大人に背伸びする

あの扉の向こうには

すてきな恋が待っている

神様少しでいいからのぞかせて

大人の私を

レディの私を

鏡の中の私は

子どもですか 大人ですか

□紅をぬっても似合わない

三つあみしてもどこかおかしい
複雑な気持ちの私
14歳



Aさんが描いた絵

あとがき

子どもの問題は子どもに返す

お忙しい中、拙著をお読みいただき、本当にありがとうございます。

ところで、今回の出版に際し、自分の気持ちを突き動かしたのは、最近の子ども、学校（教師）をめぐる厳しい状況です。

具体的には本文に委ねますが、とにかくこの国（世界）を担うであろう「宝物（子ども・若者）」との関わりのなかで、「人として生きること、あるべき人類の姿、そして地球規模の視点での見方」など、かれらといっしょに考え、論じ、とりくんできました。

こうしている今も、コロナウイルスや異常気象（地球環境問題）、そして足元のわが国の混乱する「忖度と開き直り」の世相が連日のように報じられ、「なんて（自分も含め）人間はバカなことをするんだろう？」という思いがこみあげてくるのです。

「人はどこから来てどこへ行くのか？」。これが、自らの「テーマ」でもあります。

「自分さえよければ」とか、「気の毒に……」だけの「遠まき文化」に浸ってしまわないよう、できるかぎり謙虚に、自分自身と社会に向き合っていければと念じています。

教育の原点とも言える「そつと手を添え、じつと待つ」（前大阪経済大学長・徳永光俊氏）ことを己に課しながらとりくんだ「手さぐり実践」、そして拙い分析と問題提起ですが、何かのお役にたてれば幸いです。また、できれば本著に対するご意見やご指摘なども、遠慮なくいただければうれしいです。

最後になりましたが、今回の出版に際し、せせらぎ出版・山崎社長、そして途中いろいろと相談にのりアドバイスをいただいた諸氏に、心から御礼を申しあげます。本当にありがとうございました。

2020年4月吉日

小部 修 (おべ おさむ)

貿易商社勤務のあと、東大阪市、八尾市の中学校教師（英語）に。
退職後～現在 関西外大講師。

元 大経大、大教大、相愛大、同志社大など。

○各種プロジェクトやセミナー（講座、研究会など）を主宰

「希望塾」（英語授業研）

「Tプロ」（教育、教採セミナー）

「SKY」（支援・教育・of Youth）

「SOGID」（LGBTQ研）

「せんせいの学校」（集団づくり、部活、同僚性など）

「むげん学級」（小学校問題）

その他

○講演、助言（校内研、各種教育・子育て研修会など）

○授業・集団づくり、いじめ・不登校問題、部活、LGBT問題等

○著書

『輝け 中学生』（清風堂出版、日本図書館協会選定）

『子育て・教育おもしろいぞ』（法政出版、日本図書館協会選定）

『これで安心子育て・教育』（フォーラムA）

『格差社会のキャリア教育 - 君は君のままで』（春日出版）

その他、共著、論文など

○サックス・尺八・篠笛、演奏活動

2007年度ヤマハコンクール大阪地区大会グランプリ

2009年～現在、演奏活動やCDをリリース

2010年4月 プロデビューコンサート

【連絡先】

〒577-0801 東大阪市小阪1-12-12-803

携帯電話 090-3864-7675

メール obexiu@s6.dion.ne.jp

●装幀——大津トモ子

「子ども力」をひきだす学校づくり

ーいじめ、不登校も必ず解決できるー

2020年 7 月 1 日 電子本発行

著 者 小部修

発行者 山崎亮一

発行所 せせらぎ出版

〒 530-0043 大阪市北区天満 1-6-8 六甲天満ビル 10 階

TEL. 06-6357-6916 FAX. 06-6357-9279

郵便振替 00950-7-319527

©2020 ISBN978-4-88416-805-6

せせらぎ出版ホームページ <https://www.seseragi-s.com>

メール info@seseragi-s.com